

2020 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2020 年度においても、FD 研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸にして、FD 活動を進める。

2019 年度の FD 研修では、本学部英米学科に所属する川島正樹教授を迎えた「WebClass の諸機能とその活用法」と題した講演会と、国際基督教大学でサービス・ラーニング担当講師を長年務める黒沼敦子先生を迎えて、「アクティブ・ラーニングとしての国際サービス・ラーニング-地球市民を育む ICU の教育実践」と題した研修会を実施した。学部構成員の授業運営上のスキルを向上させ、またサービス・ラーニングが異文化理解や多文化共生を掲げる外国語学部の教育プログラムにどう活かせるか考えることを目的としたものだった。2020 年度も引き続き、2017 年度の FD 研修からの継続を図るアクティブ・ラーニング、Online 授業や E-Portfolio の効果的活用法、あるいは外国語教育の現状と課題といった中からテーマを絞り込んで、外部講師を招聘して研鑽を深めることとする。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、以下に示す各学科の活動方針・活動計画の実施状況を中心にして、各学科間での意見交換を行う。

2020 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は、以下の通りである。

英米学科

- 1) 学科が管理する LL 施設について、2020 年度夏に予定されている設備更新を踏まえて、施設の有効利用および今後の活用方法について検討する小委員会の活動を継続し、それぞれの方針を決定する。
- 2) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 3) 学科内に専門の小委員会を組織し、学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 4) 過年度と同様、学科内に専門の小委員会を組織し、学科必修科目の内容および評価の標準化の努力を継続する。

スペイン・ラテンアメリカ学科、

- 1) 2020 年度は、新たに 2 名の教員を学科に迎えることになる。1 名は外国語教育センターの科目を中心に、もう 1 名は学科科目を中心に担当することになるが、新メンバーができる限りスムーズに学科運営に参加できるよう、他の学科教員が適宜サポートし、学科内での協力体制の構築に努力する。
- 2) これまで同様、ラテンアメリカ研究センターとの連携などを通じ、国内外の優れた研究者を招いて講演会・研究会を開催し、相互の研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げる。具体的には、過去 5 年に蓄積された「大学の世界展開力強化事業」(中南米)における交流実績を

基に、本学のラテンアメリカ研究センターと先方のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた上智大学との連携、あるいは、教員の相互訪問による輔仁大学（台湾）との交流の継続が挙げられる。

4) 学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* の大きな部分の改訂作業が終了したので、これを十分活用して、学生に対する学び方や留学の実際などを指導するとともに、同冊子の細かい部分の改訂作業を続ける。

5) 各教員の得意とする分野の知識・技能を活用し、学科内での業務分担を円滑化するとともに、教員間での相互支援を促進する。例えば、情報機器リテラシーの向上を図るような機会を設けることを検討する。

6) 引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、言語科目運営上の微調整を行うと同時に、非常勤講師の先生方との面談の機会を継続して持つ。これに加え、学科教員と非常勤講師が一堂に集って意見交換を行う機会が作れないかどうか検討を続ける。

7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2020 年度は不開講となってしまった「海外フィールドワーク B」(メキシコ) を 2021 年度に向けてどのように準備していくか、「海外フィールドワーク A」が 2020 年度末(2021 年 2~3 月) に実施できるかどうかの検討を行う。これに加え、LAP 科目の 1 つとして実施してきた「海外フィールドワーク B」(コロンビア) をどのように継続していくかについても協議する。

8) 学外におけるスペイン語スピーチコンテストへの積極的参加を促すよう、学生への周知を図り、必要な指導を行う。

フランス学科

1) 2019 年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の見直しを行う。また、フランス語科目担当の非常勤教員を集めて教科書会議を開催し、授業方法について事前の打ち合わせを行う。

2) 履修ガイダンスや学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトの充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。

3) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。

4) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定や TCF などの外部語学試験の集団受験を促す。

5) 学科の Facebook の更新、オープンキャンパスや高等学校での模擬授業により、学科の広報活動を行いつつ、各専攻の特長をさらにアピールするよう努める。

6) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究支援に資する講演会を開催する。

ドイツ学科

1) 新型コロナウイルス感染問題で、Q1 の授業時間が 12 コマとなる。授業内容が質の低

下を招かないように、また、授業運営等が円滑に進むよう教員同士がコミュニケーションを密にして細心の注意を払う。

- 2) 今年も、学科専任教員・外国語教育センター所属 L.I.教員・非常勤講師との間で学生の学習状況についてクォーター毎に議論し、教育環境を充実する。
- 3) ここ数年、国内外より多くの講師を招聘してきたが、今年は学生への学習効果などをより見極めながら講演会を開催する。
- 4) 今年度も可能であれば提携校のデュッセルドルフ大学から学生を招聘する予定であるが、コロナウイルス感染拡大の状況をみて判断したい。実現した場合には、ドイツ人学生と本学学生との間の交流を促進し、学生のドイツ語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 学科伝統の「弁論大会・オーラルインタープリテーション大会」の開催を継続するとともに、「ドイツ演劇上演」の継続可能な体制の構築を検討する。
- 6) リニューアルされた学科 HP を定期的に更新するとともに、学外への情報発信の重要なプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。

アジア学科

- 1) 外国語科目と演習科目に重点をおいて、授業の振り返りを継続する。
- 2) 「海外フィールドワーク A/B」の 2019 年度実施状況と実施後の評価および点検を踏まえて、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、2020 年度の実施に向けた準備を慎重におこなう。
- 3) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 4) 学科作成ホームページの定期的な更新による充実を図り、受験生や在学生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 5) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助としてインドネシア語スピーチコンテストを引き続き実施する。
- 6) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する支援を継続する。
- 7) FA.com など在学生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在学生の協力を得て 1 年次生の大学生活を支える体制を堅持する。
- 8) キャリア教育については、1 年次生および 2 年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。
- 9) Q1 の授業について、到達目標への影響を最小限に抑えられるよう、授業計画の見直しを授業開始までにおこなう。
- 10) 遠隔授業の実現に向けて具体的な検討を進める。

以上